

令和7年度 学校自己評価書

奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善策
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標の設定	①奈良学園登美ヶ丘中高中期計画に基づき、令和7年度事業計画（第1期最終年度）を作成する。（事業計画の作成） ②事業計画において、具体的な行動内容を提示する。（行動内容の提示） ③学習指導要領に基づく教育計画及び教育課程の観点別学習状況の評価を実施する。（教育課程の評価）	①「子どもの伸び率日本一の学校をめざす」をスローガンとし、「学び力」「探究力」「国際力」及びそれらの力基盤となる「人間力」の育成に取り組む具体的な行動内容を提示した。 ②新学習指導要領実施にともない、その趣旨と内容の理解を徹底し、実施計画の作成を進めた。また幼小中高一貫教育の理念のもと、ルートマップを作成し、公開することができた。 ③各教科及び教育課程部が中心となって、新学習指導要領に基づく教育計画及び教育課程について検討し、観点別評価を行った。	A	①第1期中期計画に基づく最終年度の事業計画を作成し、その概要を説明した。また、本校の教育課題の解決に向けて具体的な取組を提案した。 ②各担当部署により具体的な行動内容、事業計画（具体的取組）を提示し、本年度中に実施可能なものについては担当部署を中心に実施できた。ルートマップの改訂により、本学園の学びのつながりを確認した。 ③新学習指導要領に対応した教育計画、シラバスの見直しについては必要な変更や改訂を教科ごとに進めることができた。	①第2期中期計画(2026年度～2030年度)に基づき、2026年度事業計画の策定と実施に向けて、各分掌等の総括に示す改善方針の内容を検討し、具体的な取組を提示する。 ②改訂ルートマップを周知し、中学校及び高校においては教育課程の点検を行うこととする。M・タームのカリキュラム連携、小中連携事業についても検討していきたい。 ③観点別評価については、生徒による相互評価の在り方について、また評価を授業改善につなげる視点をさらに進めていく。
		② 教育計画の作成			A		
		③ 教育課程の編成			A		
		④ 教育活動の評価			A		
(2) 教科指導	① 学習指導計画の立案	① 学習指導計画の立案	①教育課程に則った各教科の学習指導計画を作成し、1年間の内容を示す「シラバス」を生徒及び保護者に提示する。（学習指導計画の作成・提示） ③各教科、探究学習等の指導においてICT機器の活用を進め、指導方法の工夫改善を行う。（施設設備及び指導内容の改善） ③放課後学習支援システム「尚志館」の取り組みを充実させる。（「尚志館」の充実）	①高校カリキュラムを改訂し、多様な進路実現に対応できるようにした。また個別の生徒の学習状況に合わせ、学習習慣づくりと学力向上をめざすため必要なシラバスの見直しを行った。 ①定期考査に対する取組を支援するために特別面談週間を設定し、学習計画を立てる指導を行った。学期末の中学生成績不振者には、課題に取り組み姿勢を育成するために、尚志館での自習学習を継続して実施した。 ③教員それぞれがICTを活用する手法を工夫し、各授業でバイシンクボードを有効に活用できている。またClassi、ロイノットなどのアプリの活用、英語科のELST等を活用した指導を進めることができた。 ③質問対応付き自習室及び「尚志館」の取り組みを推進した。 ③Y2イングリッシュキャンプ、Y3オーストラリア語学研修は全員参加とした。世界につながる行動力の育成を目指すグローバル・コミュニケーションプログラムは、Y1・Y2・Y3の3学年で実施した。	A	①高校カリキュラムについて、共通テスト、推薦入試に対応できるよう改訂した。各学年の「シラバス」を生徒及び保護者に配布し、授業の目標や流れについてお知らせした。 ①中学生の成績不振者に尚志館を活用して、自習自習の習慣づくりを行った。併せて定期考査前に成績不振者を対象に特別面談週間を設定した。 ③バイシンクボードを活用した授業は各教科指導で進んでいる。従来より取り組んでいる社会見学、体験活動等の事前事後指導に加えて、探究学習のプレゼン発表、英語プレゼンコンテスト等についても十分に活用されている。また「探究ルーム」はグローバル・コミュニケーションプログラムを中心に活用した。 ③「尚志館」に参加する生徒に、学習時間の増加と成績の改善が見られ、今年は医学部に合格する生徒も輩出した。学年進行により、M3～Y2の4学年で全員登録による質問対応付き自習室を開校し、定期考査前を中心に多くの生徒が利用した。 ③ISAと連携してY3・Y2・Y1の3学年でグローバル・コミュニケーションプログラムを実施し、ネイティブ教員による異文化理解、英語プレゼンなどの授業を展開した。	①高校カリキュラムの改訂の趣旨に沿った指導を実践していく。 ①成績不振生徒に対する教科指導の充実、考査に向けての特別面談指導、教育相談等について取組をさらに充実させる。 ③質問対応付き自習室は4学年で実施となったが、チューターの人員を確保していただき、さらに生徒の質問対応と学習習慣づくりを支援していく。 ③グローバル・コミュニケーションプログラムのカリキュラム編成については、本校の海外研修と連携した内容にしたカスタマイズしていただくことができた。それをもとに、ICT機器の活用と連携させた授業をさらに充実させていく。 ③One to oneシステムの継続のため、法人本部と連携した保守管理を進める必要がある。
		② 学習内容の精選			A		
		③ 指導方法の工夫改善			A		
		④ 評価			A		
(3) 道徳・特別活動	① 指導計画の立案	① 指導計画の立案	①中学校における道徳の重点目標、指導計画を立案する。（指導計画の立案） ③泊行事の目的と体系化、内容の充実を図る。（宿泊研修の目的・内容について学年の系統性を整理、改善する）	①教育課程に位置づく道徳の時間を有効に展開するため、各教員に対して道徳科の指導内容を4つの観点から整理し、理解を図った。 ③各学年の宿泊研修を予定通り実施した。Y3学年はオーストラリア語学研修も全員参加の形で実施することができた。ターム留学についても過去最多を更新するのY2学年15名が参加し実施したが、Y1・Y2を対象とするシンガポールグローバルリーダー育成研修は参加希望者が少なく実施を見送った。	B	①中学校における道徳についての指導計画を立案し、各学年正副担任で分担して実施することができた。評価についても基準を統一して共通理解を図りながら実施した。 ③各学年の宿泊研修、オーストラリア研修において、事前事後の学習とプレゼン等を実施できた。ターム留学も予定通りの期間、内容で実施でき、有意義な留学となった。シンガポール研修は、昨年多くの参加者が集中したため、今年度は希望者が少なく中止とした。	①道徳科の指導案作りと評価についてさらに研修が必要である。道徳教育推進教員を中心に、さらに内容を充実させていく。 ③探究学習を通じて多様な体験を積ませることは本校教育の柱の一つである。生徒の主体性を引き出す活動と共に、探究学習、キャリア教育とも連携したプログラムをさらに導入していく。 ③シンガポール研修は、プログラムをさらに充実させる。また新規に研修国を設定し、隔年で実施することを検討する。
		② 学級活動・学級経営			A		
		③ 学校行事			A		
		④ 児童・生徒会活動の活性化			A		
(4) 総合的な探究の時間の指導	① 学習指導計画の立案	① 学習指導計画の立案	①探究学習の実施学年において年間計画を策定し、計画的に実施する。（探究学習の実施） ③国際理解教育・キャリア教育の充実（計画の実施と内容の改善、主体的で対話的な深い学びの導入）	①探究学習推進チームにより作成された実施計画に沿って、M3～Y2学年で探究学習を実施することができた。Y1で取り組んだ県内企業との連携による「大和みらいエンジン」では、参加チームが県大会で最優秀賞に選ばれ、全国大会に進出した。Y2の課題研究では、兵庫医科大学で開催された医療系分野をテーマとするコンテストに応募し、本選への出場を果たした。M3学年は宿泊オリエンテーションで探究学習を実施した。 ③キャリア教育ではICTの活用、アクティブラーニングの導入、プレゼンテーション能力の育成を意識した取組を計画した。	A	①探究学習はM4学年で実施した「ソーシャルチェンジ」、Y1の「大和みらいエンジン」、Y2の個人探究の取組で、チームでアイデアを出し合い、まとめ、プレゼン発表会及び他学年との交流会での成果を発表した。 ③キャリア教育についてはY1・Y2学年で「卒業生によるキャリアトーク講座」、Y2Y3で「大学模擬授業」を実施した。また進路ホームルームで、自分の興味や適性、将来像を模索し、大学学部学科選びへつなげる指導を展開した。	①探究学習の評価について、パフォーマンス評価のあり方、ルーブリック評価表の活用について検討を進めていく。 ③本年度Y1で実施した「大和みらいエンジン」の取り組みを継続し、次年度、Y2でインスパイア・ハイスの「Project」に沿った個人探究に取り組んでいく。また、希望者には課題研究 NEST LAB.にも挑戦させていきたい。 ③ICT機器を活用して、プレゼン能力のさらなる向上と英語によるプレゼン、ディスカッションを導入し、各種コンテストでの発表につなげていく。
		② 学習内容の精選			B		
		③ 指導方法の工夫改善			B		
		④ 評価			B		
(5) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	① 人権教育指導計画の立案	①6年間を見通した人権教育指導計画を策定し、本校生徒の実情に合った人権に関する学習を行う。（指導方法の改善）	①人権教育推進委員会が中心となり、6年間を見通した人権教育指導計画を策定して、それに則した実践を全教員で行い、その内容や成果について検証した。また、人権講演会、データDV防止講座、ネットリテラシー講座を実施し、生徒の人権意識を高揚を図った。 ③「いじめ」「トランスジェンダー」をはじめとした身近な人権問題から海外研修を契機として「異文化理解」などのテーマに取り組んだ。また3学期は校内人権作文集を教材として活用したホームルームを展開した。今年度は滋賀県東アジア交流ハウス、滋賀県平和祈念館での研修を実施した。	A	①人権教育指導計画に則った指導を各学年で、年間を通じて行うことができた。校内で編集した人権作文集を教材として人権HRを展開し、生徒相互に人権感覚を育成するとともに教員の人権意識の高める取り組みにもなった。 ③人権HRの取組等については、定期的に開催する人権教育推進委員会ですべて報告し、情報を共有している。今年度実施した県外研修では、東アジアの平和と友好、隣国の戦争被害等について考察を深めることができた。	①教職員の内外部研修への参加、人権講演会等への保護者の参加を呼びかけていく。また研修の成果を共有する報告会を設定する。人権ホームルームの授業案の作成及び事前研修をさらに深めていく必要がある。 ①生徒の課題を把握し、教育相談、特別支援教育との連携を進めていく。 ③各学年で作成した指導案を共有し、各学年の取組項目に応じた指導を推進する。
		② 学習内容の精選			A		
		③ 指導方法の工夫改善			A		
(6) 生徒指導	① 組織的な生徒指導	① 組織的な生徒指導	①②③④⑤⑥校内指導体制の確立（校内での取り組み及び指導状況、教育相談体制の活用状況）	①②④⑤生徒指導部及び生徒指導委員会が中心となり、生徒指導方針の策定を行い、「巡回指導サポートチーム」を中心としてその取組を進めた。特別指導案件は5件であったが、学年と連携して迅速な対応で指導を進めることができた。 ④⑤教育相談体制を整備し、それを学期末の成績会議で全教員と情報共有を行った。昨年度から奈良学園大学の岡野由美子教授に特別支援の観点からのサポートをいただき、生徒・保護者への相談・支援の幅が広がった。 ④⑤⑥生徒指導部及び「いじめ初期対応チーム」が中心となり、早期発見・早期対応に取り組んだ。いじめについての生徒アンケート・集約会議の実施、気づきシートの活用を行い、いじめ対策について全教員で取り組む体制を確立できた。	A	①②生徒理解を指導の基盤として、保護者対応についても日々の指導の中で信頼を得られるよう取り組んだ。生徒への声掛けを積極的に進め、生徒会本部役員との協力も得て、挨拶の励行に成果を上げることができている。特別指導の件数は減少した。 ④⑤教育相談体制及び関係機関との連携については十分の役割を果たすことができた。2学期保護者アンケートでは85.3%の肯定的回答と高い評価を受けたが、さらに向上を目指す。 ⑥「いじめ初期対応チーム」が早期発見、早期対応に取り組む、指導支援を徹底した。保護者アンケートでは84.3%と昨年を上回る評価を受けている。いじめアンケート後の集約会議において、事象への聞き取り、情報の共有を徹底し、指導に生かした。	①②③従来よりM学年の生徒指導に関わる事象が多かったが、特別指導事象は5件と昨年並みに落ち着いてきている。しかしながら、中高を問わずSNSが多くなくなったため、その指導についても対応が難しい事象がある。巡回指導や気づきシートのさらなる活用を進め、事実確認・早期対応と生徒の実態に応じた指導・支援を充実させていきたい。 ②⑤いじめ問題については、巡回指導サポートチームと生徒指導部及び教育相談係との連携をさらに密にし、いじめ対策委員会、ケース会議などを通して情報を共有し、組織的な取り組みをさらに進めていく。特別指導にあたっては生徒理解の企画を充実させ、生徒が健全な学校生活を送る展望を育てるような指導となるよう、指導の進捗を見極めて指導内容を検討していく。
		② 問題行動の指導	④家庭への啓発・連携（アンケート項目 75%以上）		A		
		③ 教育相談・児童生徒理解	⑥いじめ防止基本方針に沿った対応を行う。（いじめ初期対応チームの活動状況、生徒へのいじめアンケート調査実施後の対応状況、保護者アンケート項目75%以上）		A		
		④ 家庭との連携			B		
		⑤ 関係諸機関との連携			A		
		⑥ いじめの問題への取組			A		
(7) 進路指導	① 組織的な進路指導	① 組織的な進路指導	①年間進路指導計画と数値目標（GTZ）の設定、新進路指導室の活用、進学に関する情報収集と共有、模擬試験の結果分析と各種講座の開設、生徒及び保護者への情報提供を行った。各種模試の結果分析会には、進路指導部員以外の教員の参加を増加し、前年度以上に充実した。 ②Y1・Y2学年の生徒を対象に、大学探訪・OB・OGを訪ねて～を大阪大学・京都大学で実施。医学部探訪については、特定の大学にしばらず、医学部を志望する生徒が医学部に進学した先輩の話を聞くという形式に改め、本校の大講義室を使用した座談会形式とした。卒業生によるキャリアトーク・合格体験発表会を実施し、進路に向けての意識付けを行った。 ③推薦基準に基づき、内部推薦に向けての指導助言を行った。 ④保護者対象の進路講演会の実施形態を見直し、中高6か年一貫教育の観点に立った情報の提供ができる体制に変更した	①横試の分析会、国公立大学出願検討会を他学年の教員も交えて実施し、情報の共有と出願戦略を練ることができた。2年目となるY4学年における毎学期の進路指導会議も、進路指導部としての受験学年の現状把握や、学年の教員団の共通認識の醸成などに役立っている。 ②大学探訪は多数のOB・OGの参加を得て、進路意欲を高める有意義な時間となった。卒業生によるキャリアトークも好評であった。国立医学科を始めとする難関大学進学率は12.3%（昨年度11.5%）となり、医学部医学科合格者は現浪合わせて18名（昨年度17名）と増加した。 ③小学校から中学校への内部進学について計画通り実施することができた。今年度の内部進学率は71.7%（昨年度65.5%）となった。 ④進路指導部長が講演会を実施し、本校の実情や課題を踏まえた、進路に関する最新の情報を保護者の提供した。	A	①④進路指導室に進路・キャリア教育のセンター的機能をさらに充実させる。進路講演会は保護者対象と生徒対象（Y2～Y4）のものを分けて実施し、講演内容の確定を図る。 ②進路の生徒を中心とする地方国立大学への進学率の上昇と、国立大学の推薦入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）への意識の向上をさらに進めていく。大学探訪は現在実施している大学に加えて、奈良学園大学保健医療学部の訪問実施したが、さらに参加しやすい体制整備を図る。キャリアトーク・合格体験発表会の企画を充実させる。 ②中高6か年教育の視点に立った指導を強化し、学年主任・教科主任と連携して、充実講座、養成講座、学習合宿を計画的に実施する。 ③中高の取り組みや進学実績等について、小学校に情報提供を進める。	
		② 指導方法の工夫改善			A		
		③ 内部進学			A		
		④ 家庭との連携			B		
(8) 特別支援教育	① 組織的な特別支援教育	① 組織的な特別支援教育	①巡回指導サポートチームが支援を必要とする生徒の状況を把握する。 ②合理的配慮及び支援が必要な生徒の現状・指導方針について校内委員会及び職員会議で共通理解する。（共通理解の状況） ②⑤特別支援教育アドバイザー、県教委特別支援教育推進室、奈良学園大学人間教育学部当のアドバイスを受け、支援が必要な生徒への対応を検討する。（ケース会議の実施）	①巡回指導サポートチームを中心に授業を巡回し、状況に応じて支援を行った。 ②各学年主任及び教育相談係が連携して、配慮が必要な生徒について、学期末成績会議で情報を共有し、個々の生徒に応じた支援体制をつくった。 ②⑤県特別支援教育推進室の助言をいただき、配慮が必要な生徒9名について、個別の指導計画を作成して支援にあたった。奈良学園大学人間教育学部の岡野由美子教授（特別支援教育）に協力をいただき、支援の必要な生徒・保護者と相談を実施することができた。	B	①巡回指導サポートチームが適宜教室に入って支援し、担任と連携して取り組むことができた。支援が必要な生徒には、個別の指導計画を作成し、情報共有を図りながら支援の方法を考えた。 ②各学期末の成績会議において、配慮が必要な生徒についての情報を全教員が共有し、指導と支援の方法についても確認することができた。また、発達障害、思春期における心身のバランスに課題のある生徒についても情報共有を行うことができた。 ②⑤奈良学園大学の岡野教授による面談の結果を共有し、養護教諭及びスクールカウンセラーとともにケース会議をもち、支援の方法について検討した。	①支援・配慮を要する生徒には学年・養護教諭・教育相談係等の組織で対応する。またケース会議をもち、知見者の見解を伺いながら学校としてできる支援を進めていく。 ②配慮及び支援が必要な生徒が年々増加している。それらの生徒に対応するため、個別の指導計画を作成し、生徒指導と教育相談係・スクールカウンセラーが連携して、組織的に取り組む体制づくりをさらに進める。また医療機関とも連携して学校の取り組み状況を伝え、支援の方法について協議する必要がある。
		② 配慮が必要な児童生徒の共通理解			A		
		③ 指導方法の工夫改善			B		
		④ 家庭との連携			B		
		⑤ 関係機関との連携			B		

令和7年度 学校自己評価書

奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善策		
Ⅱ 学 校 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 校長のリーダーシップ	①校長が学校経営方針及び中期計画に基づき、令和7年度事業計画を策定し、教員に周知する。 ②④所属長方針を示し、学年・分掌ごとの重点目標を策定する。 ③学校経営目標の達成と人材育成を目指した校内人事配置を行う。	①校長が学校経営スローガンとして「子どもの伸び率日本一」の学校づくりを提示し、「学び力」「探究力」「国際力」とそれらの力を育てるための基盤となる「人間力」の向上を目指して、第1期中期計画に基づく令和7年度事業計画に沿った行動目標を示した。 ②④校長が年度当初に所属長方針を全教員に提示し、学年・分掌・委員会、さらには個々の教員が目標設定をするための指針とした。 ③学年主任、担任配置において新規の人材を抜擢した。	B A A A	A	①中期計画に基づく事業計画に沿った行動内容に取り組むために、教員のベクトルを合わせ、当事者意識を醸成した。担当各分掌長・委員長を中心に設定した行動内容に取り組むことができた。また、教員面談により、指導内容等の提案についても貴重な意見を聴取できた。 ②④校長が年度当初に所属長方針を提示し、それを踏まえて学年や分掌、さらには個々の教員が目標設定を行い学校経営計画及び目標設定シートを作成した。1学期の教員面談を中心に教員への指導助言を行うことができた。 ③新たに抜擢した人材については、期待する成果をあげている。	①中期計画に基づく、今年度の事業計画の進捗を管理し、次年度の取り組みへと繋げていく。 ②④所属長方針、第2期中期計画・令和8年度事業計画を全教員へ周知し、行動内容の具体的手立てについて指示する。 ⑤各部長・主任級のみならず、ミドルリーダー・若手教員による提言・企画を引き出す機会を設定していきたい。 ③教職員の学校経営・広報活動への参加意欲をさらに高めるために、これまでの取り組みの成果と課題を共有する。	
		② 学校経営目標・方針							
		③ 教職員の適正配置と運営への参加意識							
		④ 校務分掌等の連携							
		⑤ 会議の運営と位置づけ							
		⑥ 会議の結果							
		⑦ 職場の人間関係							
	(2) 研究・研修	① 研修の組織・計画・実施	①②学習指導要領に基づく観点別学習状況の評価を継続する。(研修の実践) ③授業交流週間、公開授業週間を設定し、教員の授業力の向上を図る。(授業研究の推進)	①②管理職、教務部長が中心となり、各教科で本校の教育実践に即した観点別評価を実施している。三校合同研修会、医学部受験研修会を開催した。 ③1学期に授業交流週間を設定し、観察内容等を記録することで他の教員に共有した。また小学校の研究授業にも参加し、中学の授業づくりの参考となる情報を得た。2・3学期にはテーマを設定しての教科代表教員による公開研究授業を実施した。 ④学習指導、進路指導、大学入試実践対策等に関する研修会に参加し、各教科で内容の共有を図った。	B B A A	B	①②8月には、奈良文化高校・奈良学園中高と合同で、依法律事務所の板谷直樹弁護士を講師として、「中高におけるハラスメント」及び「ハラスメント防止」に向けた関連法令等について研修した。2月には富士学院より講師を招き、医学部受験についての教員研修を実施し、全教員に医学部志望生徒の指導の在り方を周知できた。 ③授業研究については、1学期に授業交流週間を実施した。2・3学期の公開研究授業では各教科でテーマを設定し、他教科の教員にも参加を呼びかけ教科の代表教員が授業公開を行った。 ④予備校主催の受験対策講座、大学入試の動向分析等を中心に研修した成果を進路指導に役立てることができた。	①学校の現状・課題を分析し、それに合わせた研修テーマを設定し、悉皆研修企画する。 ③進路指導部が入手している情報共有、本校の進路指導の在り方と学習指導の要点に関する研修を実施し、計画的な進路HRや進路相談などの実践につなげる。また、授業研究及び学級経営研究をさらに充実させ、小学校との授業交流を充実させていく。 ④校外研修については、進路指導・教科指導関連の研修の他、学級経営・保護者対応・人権教育等の研修会にも積極的に参加を促す。	
		② 校内研修							
		③ 授業研究							
		④ 校外の研修への参加							
		⑤ 研修成果の普及							
	(3) 安全管理	① 学校安全計画の立案	①学校安全計画の再検討(計画の再検討)、安全点検の実施	①学校安全計画の内容について点検し、月一度の一斉安全点検を実施した。	A	A	①③④「危機管理マニュアル」に基づいた感染防止対応を行うことができた。安全点検で指摘された事案への迅速な対応を行った。落雷事故防止対策については、特に安全対策を徹底し、生徒に避難行動を実践させた。また校内衛生委員会を学期ごとに開催し、校内施設等の安全面で問題がないか協議し、対応策を検討した。合同衛生委員会では、学園の産業医より、職場環境及び教職員の健康管理等に関する指導助言をいただいた。	①③④学校の施設設備の安全点検、生徒等に対する通学を含めた学校生活その他の日常生活における安全指導をさらに進め、教職員に関する研修についても検討する。危機管理マニュアルに校外活動における安全確保の留意点を新たに記載し、活動の安全管理を徹底する。 ④生徒の登下校時の安全確保、公衆衛生に関する対応をより徹底していく。	
		② 学校防災計画の立案	④危機管理マニュアルの工夫改善(アレルギー対応・熱中症マニュアルの改善、事故の状況、研修・講習会の内容と実施回数)	④保健部・生徒指導部が連携して、年度当初に危機管理マニュアルを作成し、全教員でその内容を周知し、状況に応じて対応できるようにした。学期ごとに校内衛生委員会を、年間2回幼小中高合同衛生委員会を開催して。特に落雷事故防止対策として、雷の基本特性、避難行動、安全対策等について新たに規定した。	A A B	A			
		③ 危機管理体制の整備							
		④ 安全指導の工夫改善							
		⑤ 家庭との連携							
		⑥ 関係機関との連携							
	(4) 保健管理	① 学校保健計画の立案	②教育相談体制の構築(教育相談活用状況) ④関係機関との連携の推進(各関係機関との連携)	②保健部教育相談係及びスクールカウンセラーとのカウンセリング会議、個別の支援が必要な生徒対応を協議するケース会議(スクールカウンセラーを含む)をもつことができた。成績会議時に情報を共有し、個々の生徒に応じた教育相談体制の構築を図った。 ④特別な支援が必要な生徒への対応のため、奈良学園大学人間教育学部の岡野由美子教授の協力を得て、教育相談を行った。	A B	B	②各学期ごとのカウンセリング会議及び成績会議において、配慮が必要な生徒、心身のバランスについての問題を抱える生徒についての情報を全教員が共有することができた。校内衛生委員会では職場環境の整備、職員の健康の保持増進に関することも協議した。 ④ケース会議でスクールカウンセラーから助言や奈良学園大学岡野教授から指導助言をいただくなど、関係機関との連携を通して、生徒・保護者への支援に繋がった。	②メンタル面で支援が必要な生徒、合理的配慮が必要な生徒への支援について、個別の指導計画を作成し、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、支援内容をより具体的に示していく。それらの生徒が抱える課題が種々によって異なるため、スクールカウンセラー、教育相談係、さらには関係機関との連携等を進めていくことが重要である。	
		② 心のケアや健康相談の体制の整備							
		③ 健康観察、健康管理能力の育成							
		④ 関係機関との連携							
		⑤ 学校給食の衛生管理							
	(5) 地域等との連携	① 学校情報の発信	①学校情報の積極的な発信(ホームページ、ブログ発信状況)	①Web媒体広告、YouTubeの動画配信、Instagram、ホームページや校長ブログを利用して、多彩な学校情報を積極的に発信した。アクセス数の増加につながる情報発信のさらなる工夫が必要である。	B A	B	①Web媒体広告、YouTubeの動画配信、サイネージ広告などを拡充し、情報提供をさらに推進した。またホームページの新着情報や校長ブログ、本校のアプリ等で、校内行事や生徒の様子を積極的に伝えることができた。 ②学校関係者評価委員会、第三者評価委員会を公開した授業の評価をいただき、本校の特色ある取組をご理解をいただいた。 ③保護者対象の進路講演会では進路指導部長より最新の入試情報や学習の進め方、保護者の心構えなどについて説明し、協力体制を整えた。 ⑤年間を通じて「PMY通信」を発行し、幼小にも中高の様子を伝えることができた。	①Webコンテンツを活用した広報活動の推進、動画配信や魅力あるホームページ作りの工夫と情報発信の頻度を高めていく。特に新着情報の多彩な発信に努めたい。Word Pressを活用して、ホームページのリニューアルを図り、より有効な発信に努める。 ②生徒、保護者のニーズに応える講習会を企画し、特に進路関係の情報発信に努める。学級保護者会、保護者アンケートをいただいたご意見ご要望には迅速に対応しているよう全校態勢で取組を進めていく。次年度は新企画として、卒業生の保護者との座談会及び講演会を企画していただいている。	
		② 学校(授業)公開	②授業参観、学級懇談会、学校関係者評価委員会、第三者評価委員会の開催 ⑤幼小中高連携計画立案と実践の蓄積(計画作成の有無と実施状況)	②授業参観、学級懇談会を通して授業を公開し、学校関係者評価委員会では育友会本部役員に特色ある授業をご覧いただきたいご意見を伺った。第三者評価委員会では奈良教育大学教職大学院の前田康二教授をお招きして、本校教育について視察いただき指導助言をいただいた。 ④学校関係者評価委員会の委員として育友会本部役員にお入りいただき、学校経営、教科指導、生徒指導等に関してご意見を伺った。 ⑤英語科(EC)のM学年Ⅱ類ブレッド授業において、内進生のアドバンテージを授業展開に生かすことができた。	A B	B			
		③ 家庭・地域との連携							
		④ 育友会活動との連携							
		⑤ 校種間連携							
⑥ 課外講座等									
(6) 施設・設備	① 教育環境の整備	①②生徒の自習環境の整備と既存教室、施設の有効活用(整備計画及び実施状況)	①②Yダイニング・なとみんホールを会場として「尚志館」を運営し、大講義室及びUM4・Y1・Y2教室を使用してM3～Y2の質問対応付き自習室を開いた。また、ICT関連の充実とGCP、探究学習等で使用するため開設した「探究ルーム」「第2探究ルーム」を十分に活用することができた。 ②全教室にバイシンクボード、理科実験室等にプロジェクターを設置し、授業等で有効に活用した。	B A	B	①②生徒の放課後自習室を運営し、多くの生徒が自習自習に取り組むようになった。「尚志館」でも、登録生徒は学習習慣づくり、学習計画の策定と実践に取り組む、基礎学力の向上のみならず大学受験においても成果が現れている。各教室のバイシンクボードは授業のみならず、探究学習発表会や学校行事、宿泊研修の事前事後学習の発表等においても有効に活用された。	①②質問対応付き自習室・「尚志館」の専用教室・会場の整備が必要である。学校行事と重なる場合の移動を余儀なくされる場合がある。GCP・探究学習等で「探究ルーム」の活用をさらに進め、教育効果を高めていく。少人数指導を実施するための講義室、教育相談室、文化部部室の整備も課題となっている。		
	② 施設設備の有効利用								
	③ 施設設備の管理								
(7) 情報管理	① 公文書の作成	②個人情報の保護に関する規定に沿った対応	②生徒や保護者、広報行事に関わる情報提供者に対する個人情報の管理を徹底するため、個人情報保護規定の確認と定期的に教職員への注意喚起を行った。	A	A	②個人情報の管理及び学校公文書の管理については特に問題はなかった。	②各教員の日常の業務の中での個人情報の管理及び情報保護に関する意識をさらに高める必要がある。		
	② 個人情報の管理・保護								
(8) 生徒募集・広報	① 広報活動の充実	①②学校見学会・学校説明会・クラブ体験会プレテスト等の内容の充実、塾等との良好な関係と情報交換(広報活動の状況、他校分析活用状況)	①②紙媒体広告は削減し、ターゲティング広告を実施した。また、YouTubeやInstagramの動画配信、主要駅でのサイネージ広告を継続実施した。Zoomウェビナーを用いて塾対象学校説明会を行い、LINE公式アカウントを用いて受験生・保護者に様々なイベントの告知を行った。また、動画サイト等のWeb媒体、インターネットからの個別相談・個別学校見学会を申し込めるシステムも利用者が増えた。計画的・戦略的な塾訪問を通じて、本校教育への評価と課題を確認し、志願者増への取り組みに生かした。	A A	A	①②Webベース広告、各種受験広報誌への掲載に積極的に取り組み、広報活動を充実させることができた。説明会・見学会・体験会ではチームなとみん(ボランティア生徒)、卒業生の活躍が好評を得て、学校の評価を高めることに貢献してくれた。塾等へ計画的に訪問し、プレテストの参加者も420名を超え(参加者427名←昨年428名)、志願者総数は昨年を上回った(670名←724名)。受験者数も全日程合計で昨年を上回り(548名←616名)過去最多となった。	①②Webコンテンツを活用した広報活動の推進およびオンライン個別相談・個別学校見学会システムの運用を充実させる。本校の教育理念、経営スローガンのもと、学習指導、進路実績の他、探究学習、GCP、尚志館、大学探訪、各学年の宿泊研修、海外留学など、学校の特色、PRポイントを明確にした広報活動をさらに進め、受験者数の増加と歩留率の上昇、上位層の確保を期して、より訴求力のある特色化に取り組む。		
	② 志願者数増の取組								